

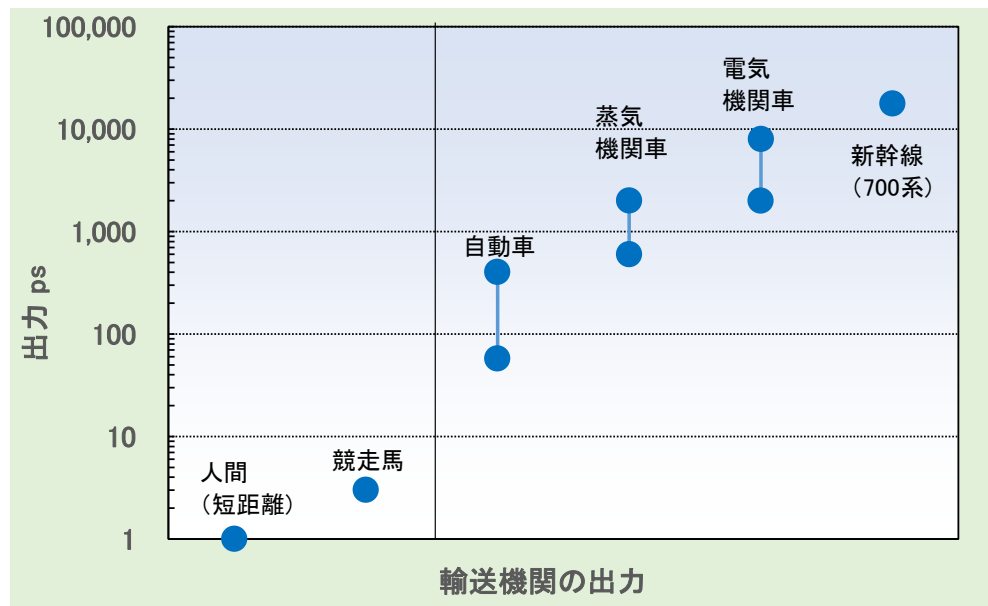
## ～ 兵站の歴史 ～

兵站（ヘイタン）とは軍事上の物流のことです（前コラム参照）。紀元前の古代ギリシャ、哲学者ソクラテスは歩兵として戦争に参加し、こう語っています。「指揮官の・・・もっとも重要な能力は兵士たちに軍装備を揃え糧食を与え続けられる点にある」。つまり、兵站が一番大事だと言っているのです。といっても、この頃の兵站は主に食糧の供給でしたから、ソクラテスはお腹が空いていたのかもしれませんが。いずれにしろ、3,000kCal/日・人を与え続けるという使命は、実際の戦闘と同様に重大事項なのです。

その後、時代が下っても、やはり兵站の主な任務は人馬への食糧補給でした。大規模な行軍を支える食糧はいかにして確保されたのか？ それは、主に「徴発」によっていました。徴発とは要するに強引に取り立てることです。行軍中の道々で食糧を半ば無理矢理確保していた、という訳です。とはいっても、作戦上は重要な要素で、それはつまり、行軍の速度が徴発状況に左右されるとか、ある一定地点での持久戦は食糧が底をつくので困難なことだとか、ルートをうまく選ばないと十分な徴発ができない、とか色々あるわけです。

しかし、そんな状況が一変する出来事が起こりました。背景は産業革命です。技術革新により兵器の大型化が可能になったのです。が、問題はそれをどうやって運ぶかです。お気付きかも知れませんが、鉄道等の交通網の発達がそれを可能にしました。ここから兵站も大きく変わって、食糧以上に兵器や弾薬等の輸送が重要度を増し、その流れは現在までも続いています。この変化をクレフェルトは著書『補給戦』の中で「・・・兵站の歴史とは、軍隊が現地徴発の依存からしだいに脱却することである。」と記しています。

要するに、兵器も兵站もエネルギーが桁違いに大きくなっていったのです。因みに、輸送機関の出力をネットで調べて比較してみたのが下の図です。縦軸は1目盛大きくなる毎に値は10倍に大きくなることに注意してください。馬が1馬力(ps)かと思ったら3馬力で、1馬力なのは人間だそうです。それらに比べると、産業革命以降に生まれた輸送機関は、はるかに大きな出力を発生することがわかります。新幹線に至っては人間の2万倍近くあります。付け加えれば、人間は短距離の場合なので、持続可能な時間を考えると、発生するエネルギーの差はさらに大きく広がります。



そして、兵站の考え方も大きく変わりました。兵器が大型化するという事は弾薬なども大きくなり、また同時に高度化するからメンテナンスも必要になり、他の消耗品なども供給しなくてはなりません。要するに補給物資の種類も量も格段に多くなっていて、ということは、補給が途絶えれば戦闘もままならない状況に陥ってしまいかねず、そうであれば、相手とすれば正面きって戦うより補給ルートへの断絶作戦が今まで以上に重要となり、結局、戦闘の場が前線だけでなく補給ルートまでにおよぶことになりました。補給ルートの攻防が最重要戦略の一つになったわけです。兵站は、単に物資の物理的な補給だけではなく、戦略として捉えるべきものになったのです。

それでは、最新の兵站はどのようなもののでしょうか？ 軍事評論家の江畑謙介氏が『軍事とロジスティクス』でこの辺の事情を紹介しています。それによれば、現在では、兵站は軍事上でもっとも重要な要素の一つで、戦略の一つというより、その前提として捉えるべきもののようです。兵站なくしてはそもそも戦略も無意味だというくらいに。欧米の軍では、ITを駆使した兵站の専門チームが本国から最前線までの補給状況をリアルタイムで調整しているのです。

江畑氏はまた、現代はジャスト・イン・タイム方式の補給であるということを述べておられます。これは、個人的にはかなり衝撃的でした。ジャスト・イン・タイムが実現できるのは平準化生産や正確な内示などが大前提だと思い込んでいたからです。逆に、目まぐるしく変わる緊迫した状況だからこそ必要とされる方式なのかも知れません。

以上から、我々の物流を振り返ると、ロジスティクスとは、単なる「物的流通 physical distribution」以上のものであって、それをコントロールするしくみや思想までも含む、ということになると思われまます。

さて、ここで気になることがあります。実は我が国は兵站に関しては能力が劣ると言われるようなのです。技術的な問題というより関心が薄いといったレベルのようです。歴史学者で防衛省の研究官でもある石津朋之氏は兵站の重要性を多少の皮肉をこめて訴えています。曰く「プロは兵站を語り、素人は戦略を語る。」

そこで私としてはさらに気になることが出てきます。軍事では兵站は不得意のようだが、民間のロジスティクスはどうなのだろう？という疑問です。この点についても若干の考察をしてみました。次回にお伝えします。

戦略企画室 大原 欽也